

国連公開講座・特別シンポジウム 世界を語る

核不拡散で積極発言

星野 ODAについては、即O・7%にせよということではない。ただ、そこへ近づけるための具体的なプランを出すことが求められている。実際、日本は経済面で期待されている。軍事的なプレゼンス、つまり自衛隊派遣もまた重要で最優先という議論時々見られるが、日本は持味を出した貢献とは経済的援助にかなわない。例えば、これまで欧州はアメリカに多額の投資をしているが、ほとんど成果が見えていない。日本はアジアに三千年間、ODAを実施し、結果として東南アジアの発展に寄手している。

米国は価値を有する同盟国であり、結果的に同じ意見を持ち同じ方向へ進むということがあろう。とはいえ、それはつねに米国と同調することを意味しない。

須藤 国連憲法改正のためには、国連総会における加盟国の三分の二以上の賛成と、全常任理事国を含む加盟国の三分の二以上の批准が必要である。いったい日本は、何%の確率で常任理事国になれるのか。不安のひびきにコーヒークラブがあるが、対策はあるのか。

角 例えば、パキスタンとどうしてインドは過去に何度も戦争している国だ。その国が常任理事国になることへの危機感はあるだろう。他方、日本がなるとなれば韓国が被害されるのか、理解に苦しむ。九〇年代に常任理事国入りの機運が高まった十五年、何もせずには、日本という国は常任理事国にならざるを得ない。いわれで満足して、おかげの国になつてしまつた。また、世界が安保理の正当性を高めようとしている中、日本なりの答えを言わなければならぬ。何%とはいえないが、日本は

星野 ODAについては、即O・7%にせよということではない。ただ、そこへ近づけるための具体的なプランを出すことが求められている。実際、日本は経済面で期待されている。軍事的なプレゼンス、つまり自衛隊派遣もまた重要で最優先という議論時々見られるが、日本は持味を出した貢献とは経済的援助にかなわない。例えば、これまで欧州はアメリカに多額の投資をしているが、ほとんど成果が見えていない。日本はアジアに三千年間、ODAを実施し、結果として東南アジアの発展に寄手している。

米国は価値を有する同盟国であり、結果的に同じ意見を持ち同じ方向へ進むということがあろう。とはいえ、それはつねに米国と同調することを意味しない。

須藤 国連憲法改正のためには、国連総会における加盟国の三分の二以上の賛成と、全常任理事国を含む加盟国の三分の二以上の批准が必要である。いったい日本は、何%の確率で常任理事国になれるのか。不安のひびきにコーヒークラブがあるが、対策はあるのか。

角 例えば、パキスタンとどうしてインドは過去に何度も戦争している国だ。その国が常任理事国になることへの危機感はあるだろう。他方、日本がなるとなれば韓国が被害されるのか、理解に苦しむ。九〇年代に常任理事国入りの機運が高まった十五年、何もせずには、日本という国は常任理事国にならざるを得ない。いわれで満足して、おかげの国になつてしまつた。また、世界が安保理の正当性を高めようとしている中、日本なりの答えを言わなければならぬ。何%とはいえないが、日本は



日本の国連安保理常任理事国入りをめくって熱心な議論が交わされた国連公開講座(京都市中京区・京都新聞文化ホール)

経済援助で持ち味出せ 他国がしない貢献必要 須藤氏

今、必要な行動に出ているのだ。星野 韓国は、大目に牛耳られる安保理はよくない。中小国の存在感をもっと引き上げたいと言っている。それが日本の常任理事国入りに対する理由。従って常任理事国を増やさず非常任理事国を増やすこと。しかし、非常任理事国が増えるだけでは、実のあの国が増えることにならず、改革の意味がない。須藤 他国がしない貢献必要

なことを行つたということがなければ意味がない。例えば貧困対策(有)余るエネルギーを消費し、たらくく(飯を食へ、虫歯と糖尿病に悩む)国がある。一方で、医者がかかれず死ぬ(い)こともあふれる国がある。自分だけが豊かで安定していればいいという時代ではない。世界の安定や国の解消に積極的に貢献できる国は常任理事国に入る積極的な理由にならないのではないか。

パネル 討論

そもそも国連安保理の常任理事国とは何か、これが集まり物事を決めれば世界は従わなければならない。重みと実力を持つ国だ。一九四五年の国連発足時、英仏米中ソ(当時の連)の五カ国にはその力があつた。ところが六十年たつた今、敗戦国の地位から経済成長を遂げ、世界のGDPの15%を占める日本のような国がある。米を除く常任理事国四カ国(GNPP)を足してもこの数字に及ばない。

安保理が機能するためには決める国々の力がなくてはならないが、六十年前の五カ国だけでは不

角 茂樹氏
外務省国際社会協力部参事官



すみ・しげき 1953年生まれ。一橋大卒。77年外務省入省。国連日本政府代表部一等書記官、欧亜局大洋州課長、在ジュネーブ国際機関日本政府代表部参事官、在タイ日本大使館公使などを経て、2003年から現職。

入手情報量、質とも内と外では全然違う

また、国連分相金の約二割を負担している日本は当然、その使途について協議し決定する権利を行使する必要がある。分相金の拠出に責任を持ち、関与し、効果的な使途を選択する。常任理事国になるといつにはそういう意味がある。今は非常情情報が必要な時代だ。わたしが国連代表部に赴任した四年間のうち二年は安保理の外二年は内閣で過したが、内閣外では手さぐり情報量、重要度が全然違う。

さらに、現在の安保理の構成は、中国を除けば欧米が占めており、欧州の関心は主にアフリカに向く。アジアか日本が常任理事国になれば、安保理の中で国際的な責任を果たす一つ、アジアの一国である立場から世界の議論をパランスのとれたいという。日本に常任理事国になる資格は十分あると考える。日本は軍事化を歩まない形で外交努力をし、世界に評価され成功してきた。OD

た別の議論だ。現在、日本国民も国際社会も、可能な範囲での自衛隊派遣については理解している。須藤 架空の話だが、国連軍の編成時ですら、日本は不参加を主張できるか。

角 常任理事国であるか否かは無関係だ。憲章に記載があるとはいえず、現実には国連軍編成の動きはこれまでにない。仮に編成するとして、全加盟国に参加義務があるかといえ、ない。また、現在のように各国それぞれ主権国家である以上、国連軍編成はあり得ない。憲章上も実際も、日本が常任理事国になつたら、国連軍に対する参加義務が生ずるわけではない。

須藤 今年の八月に国連軍縮会議が京都で開かれた。平和をつくり出すための手段として軍縮は非常に重要だと思われるが、これについて、常任理事国になつた日本が貢献できる点があるか。

星野 核は二つ側面がある。一つは核軍縮。すでに核兵器を持つ国々に対し、完全に核を放棄する方向へ進める。もう一つは核不拡散。これ以上増えないようにする。ヒロシマ・ナガサキの経験を持つ国として積極的に発言すべき問題である。角 同感だ。日本なら重みのある発言ができる。例えば、核保有先進国が、インドの核保有を無責任だと批判しているが、それへの反発を核保有国が抑えるのは難しい。このあたり、米英仏は日本に期待している。核を持たない世界の主要な国として核不拡散を唱えること、これは今の常任理事国五大国が並立してもできないことだ。常任理事国になつた日本は必ずやその持ち味を生かして、重要な役割を果たしていくことができる。

Aその他によって東アジアの発展に寄与してきた。今後も軍事大国などにならずに世界に貢献できる。

また、国家の安全保障を重視するあまり軍事独裁政権に走る国家がある。そうした国では人権の抑圧、言論の弾圧が起り、社会が不安定になる。日本の戦後の歩み方はどうだったか。言論の自由、人権が保障しながら安全な国家を形成した日本の経験から、人間の安全保障という点で大きな発言ができる。

さらに、エイズ、マラリア、結核といった感染症について、アフリカのみならずアジアでも危機感が高まっているが、日本は二〇〇〇年の神崎サミットで感染症対策を打ち出し、世界エイズ・マラリア、結核基金創設に寄与した。さまざまな分野で行動し国際世論をリードしてきた日本は、常任理事国となつて世界により責任を持つことが重要だと考える。